

日本の観光政策の研究

～オーバーツーリズムへの対策を中心に～

社会科学部 会計専門職専攻

〇准教授 しみず たかのり
清水 隆則

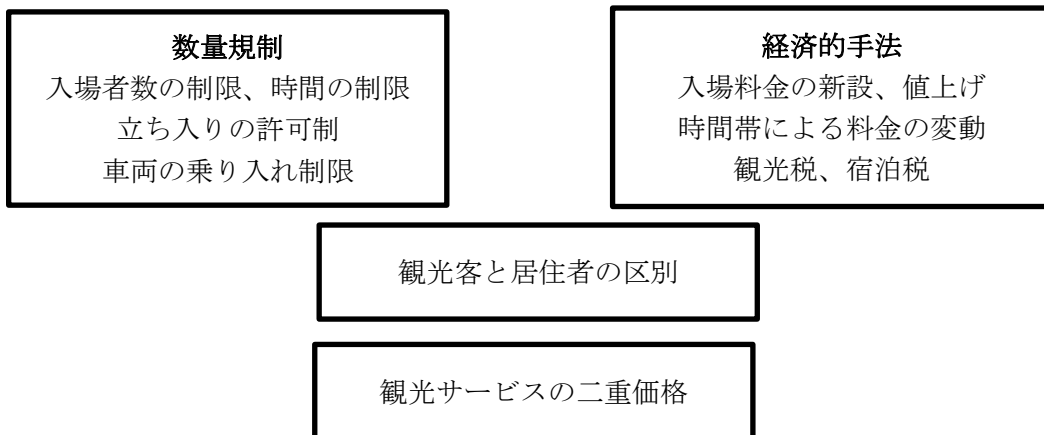
キーワード

オーバーツーリズム, 数量規制, インセンティブ

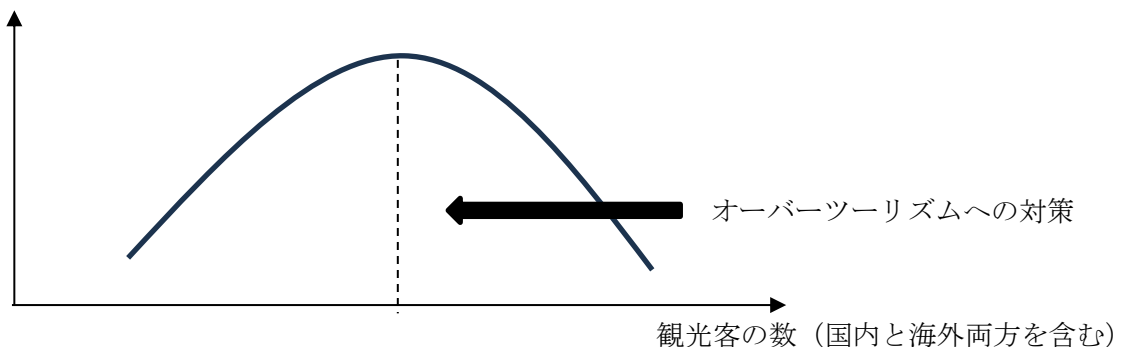


研究概要

インバウンド観光は、受け入れ地域にとっては収入をもたらし、異文化との交流による刺激をもたらし、正の効果を与える側面がある。一方で、限度を超えた観光客の流入は交通機関の混雑、騒音、物価上昇、宿泊施設の不足などの受け入れ地域の環境悪化をもたらす。このような状況はオーバーツーリズムと呼ばれる。本研究では、経済学的視点からオーバーツーリズムに対する政策を検討する。



観光地の住民の効用水準



アピールポイント

直接的な数量規制だけではなく、観光客や周辺住民のインセンティブに働きかけ、地域の観光に望ましい行動に誘導するという、経済学の視点を取り入れた政策提言を行う。また、オーバーツーリズムを引き起こす観光客数には、海外からの観光客だけでなく、国内の旅行者も含んでいる。